

ご近所の お医者さん

☐
751
☐

笠原産婦人科医院長

笠原幹司さん

—東大阪市

RSウイルスワクチン定期接種

今年4月から、RSウイルス感染症に対する母子免疫ワクチンの定期接種が始まりました。これまで3万円程度の自己負担が必要でしたが、公費で受けられるようになりました。

RSウイルス感染症は、呼吸器に感染するウイルスで、大人が感染しても軽い風邪程度で済みます。2歳までにほとんどの乳幼児が1度は感染すると言われており、乳幼児にとっては入院が必要となるような重症化しやすい感染症で

染するウイルスで、大人が感染しても軽い風

お母さんからの“贈り物”

が、現状で“はワクチン”を理由とす

す。このワクチンによって、乳幼児が感染しても重症化を抑える効果が得られます。

乳児は、生後2カ月からさまざまにワクチンを接種して免疫を獲得していきますが、このRSウイルスワクチン

初の贈り物”です。お母さんに守られながらこの世に出てくるというのも、すてきなことだと考えます。

とはいえ、副反応も気になるのではないのでしょうか。副反応は比較的軽症で、一般的な予防接種と同様に、注射した箇所の痛み、頭痛、筋肉痛などが報告されています。また、赤ちゃんの発育への影響を懸念される方もいらっ

る影響は確認されていません。ワクチン接種に対する考え方はさまざまですが、出産準備の一つとして、一度ご検討いただいてもよいと考えま

す。接種の対象は妊娠24週から36週の妊婦で、回数は1回です。里帰り出産の予定や早産の可能性などご自身の状況に応じて、接種のベストタイミングを逃さないためにも、ぜひ主治医に相談してみてください。

このように、母子免疫ワクチンは、いわば「お母さんから赤ちゃんへの最

(府医師会理事)

